

第1学年 道徳学習指導案

2021年5月15日(土)

指導者 1組 北村 治郎
2組 市川 敦也
3組 金丸百合野
4組 五十嵐真澄
5組 高橋 美紗

1. ねらい 生きていることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。

2. 教材名 生きていることのすばらしさ 「どきどき どっきんぐ」

(出典:「あたらしいどうどく1」東京書籍)

3. 展開

	学習活動と主な発問等	・指導上の留意点 ☆評価
導入	1 自分の心臓の動きについて考える。 ○自分で心臓の音を聞いた時、どんな感じでしたか。 ・動くとはやくなる。 ・深呼吸で落ち着ける。 ・胸に手を当てるとわかりやすい。	・体育の学習で行っていたことを想起させる。 ・実際に自分の胸に手をあてて音を感じてみるよう声を掛ける。 ・その場で動き、心臓の鼓動の変化を感じさせる。
展開	2 「どきどき どっきんぐ」を読んで話し合う。 ○どうしてうさぎを抱っこしたとき、「わたし」の「どっきん、どっきん」がはやくなったのでしょうか。 ・嬉しかったから。 ・緊張したから。 ・うさぎの温かさを感じられたから。 ○どうしてお母さんに抱きしめてもらった「わたし」の「どっきんどっきん」がはやくなったのでしょうか。 ・お母さんに会って安心したから。 ・お母さんに抱きしめてもらってうれしかったから。 ◎「わたし」はどうして「とってもふしぎだな。」といったのでしょうか。 ・「どっきんどっきん」の音が重なったことが不思議だったから。 ・心臓のはやさがいろいろ変わってのが不思議だから。 3 自分や人や動植物が生きているんだな、と感じた経験について話し合う。 ○自分や人や動植物が生きているんだな、と感じたのはどんなときですか。 ・ねこを飼っているので心臓の音を聞いたことがある。 ・学校のうさぎをさわってみたくなった。	・挿絵を掲示し、状況をイメージしやすくする。 ・うさぎの心臓の鼓動と自分の心臓の鼓動の重なりに注目できた意見を取り上げる。 ・母親に抱きしめてもらい、心臓の動きが変わっていることに気付かせる。 ・自分の安心できる場所を想像させ、その時の心臓の鼓動はどうだったのか考えさせる。 ・「わたし」がした心温まる不思議な体験について、共感的に捉えられるようにする。 ・心臓の鼓動の変化があったことを不思議に思う気持ちに気付かせる。 ・飼っているペットのことや、学校にいる生き物(うさぎ、金魚など)のことについて話し合い、どれも命あるものだ、という意識をもたせる。
終末	4 命に関わる歌の紹介を聞く。 ○「てのひらをたいように」の歌を聞く。	・子供たちにとって身近な歌を取り上げ、人間以外も命があることに気付かせる。 ☆様々なものに命があることに気付き、大切にしようとする気持ちをもとうとしている。【態度】

《授業の見どころ》

○学校でも飼っているうさぎや金魚についての話題や、体育の学習で学んだことを思い出させることで、命について1年生なりに考えられる機会を設けた。また、「手のひらを太陽に」の歌詞を見たり聞いたりすることで、様々な命について考えられるようにした。